

「夢はでっかいシンデレラ」

札幌市 鈴木昭平（七十歳）

いつも九月になると佐呂間の秋を思い出す。あれからもう何年になるか、大きなカボチャをマイカーの後部座席になんとかして乗せたのはよかったが、何しろ佐呂間までは遠い。とことこ走りつづけ、ブレーキをかけるたびにごろりと運転する私の背中を押しつけた。

当時、私は札幌市の郊外で子供達を集めて農園の指導をしていた。たまたま新聞で佐呂間の「シンデレラ夢まつり」を知り、ちゅうちよせずすぐ応募した。巨大カボチャを作って子供達を驚かせてやろうと思ったからである。

何しろ初めての挑戦である。送られてきた種をまき、まず苗づくりから始まった。発芽したばかりのかわいい苗を見て、私の夢はま

ます大きく膨らんでいった。

この年は例年になく雨が少なく厚い日が続き、子供達と一緒に水やりも欠かせない日課だった。七月から八月にかけて目に見えて大きくなり、時折周りを測って記録するのも楽しみのひとつでした。子供達も珍しげに、なでまわしたりたたいたりしていた。

いよいよ大会の日、九月八日が迫ってきた。九月四日、一番大きくしかも格好の良いのを収穫する。昔ながらの分銅付きばかりで計測すると七十一キロあり、これならいけると我ながらほくそ笑んだ。それにしても佐呂間までは運ぶのが大変。途中ゆっくり泊りながらようやく佐呂間入りしたのは五日目の昼近くだった。

“まつり”でにぎわう会場に着いてびつくり、自分より大きなのがごろごろしているではないか。いささか自信を失いかげながら計測していただく。

何と六十九一キロに減っているとは、途中のんびりし過ぎたのがいけなかった。水分が蒸発し二キロもダイエットしてしまったのだ。

この二キロがものを言つて惜しくも入賞を逃し十一位になったのは残念至極。それでも成績証明書をいただいたのは嬉しかった。このカボチャづくりで入賞は果たせなかつたが、私にとってはもつと別の大きな収穫があつた。

それは未知のものへ挑戦し作り育てる楽しさ。大会に参加する喜び、そして子供達にでっかい夢を与えてくれたことである。

当時（平成三年・第四回夢・91）の写真を見ながら、この催しにととても感謝している今日このごろです。





夢のつづきは果てしなく

北見市 浜田善蔵（九十三歳）

明治三十七年十月二十八日生

春に貴社より送っていたいたカボチャの種を、玄
関脇の一坪程の空き地を我が家の農園として、トマ
トやナス、ぶどうと一緒に植えたところ

見てごらん 見事なカボチャが出来ました

サロマ名物 シンデレラ カボチャ

